植物の形から生まれた模様

ミュシャは、アール・ヌーヴォーを代表する芸術家として知られています。アール・ヌーヴォーとは、19 世紀終わりから 20 世紀に起こった芸術運動のこと。日本語で「新しい芸術」という意味です。古くからの方法にとらわれず、新しく生き生きとした表現を求めた芸術家たちにとって、植物が持つ形は大きなヒントとなり、作品のなかに何度も取り入れられました。

ミュシャの作品でも、植物をや曲線や図形と組みあわせた、はなやかなデザインをみることができます。

それぞれの植物はどの作品に描かれているでしょうか？

展示室でさがしてみよう！

（　）のなかは、作品のある章です

①さがしてみよう！（1章）

豪華列車の宣伝のために作られたポスターです。

花とつるで作られた輪っかのモチーフは、列車の車輪を思い浮かばせ、列車のイメージを効果的に印象づけています。

②さがしてみよう！（2章）

植物の茎やつるの、のびのびとした曲線が模様のようにデザインされています。

③さがしてみよう！（3章）

植物に、星や輪っかなどの図形を組み合わせたパターンもみられます

描き方のバリエーション

同じひなげしの花を描いていても、その描き方は様々です。それぞれの違いを比べてみよう！

④さがしてみよう！（2章）

⑤さがしてみよう！（2章）

人物の後ろにまるい輪を付けるのは、ミュシャがの作品の特徴の一つ。中央の人の姿に、みる人の視線を引き付けるねらいがあったと考えられます。

⑥さがしてみよう！（2章）

生活のなかのミュシャ

ミュシャのデザインは、ポスターなどの大きな作品だけでなく、お菓子のパッケージや、切手、お札などにもみられます。

くらしに身近なデザインのなかにも、ふちどりの模様などに植物のモチーフが取り入れられています。

⑦さがしてみよう！（5章）

⑧さがしてみよう！（7章）

展示ケースのなかをのぞいてみよう！